振動工学と職人の感性を活かした
銅が奏でる和の響き

「なぜこんなに余韻が残るのか」。銅に関する展示会で度々目にする「小泉屋」の音響商品の澄んだ音色は、驚くほど響きがいい。展示されている仏具のおりん、カウンターベル、ドアベルなどは、どれもユニークなデザインばかり。秘密はその形状にあるのだろうか。

澄んだ音色で
お客様をおもてなし、
防犯用にもなる「ドアベル」

お酒が入っても
美しい音色が響く
乾杯用の「ショットグラス」

季節感とイベント性を演出、
装飾品にもなる「カウンターベル」

ポーンと心地よい音が響き渡る、
ボール型のお洒落な「おりん」

銅に精通した職人技、最新のコンピュータ設備、そして斬新な発想で商品を生み出す

銅合金の振動モードを解析し 狙い通りの音・響きを創り出す

小泉屋は、富山県高岡市にある株式会社小泉製作所が音響商品を販売する際の屋号。同社は、明治22年に銅の町・高岡市誕生とともに創業した老舗の鋳物会社であり、製品は仏具や美術工芸品、他にも精密バルブ、機械部品などと幅広い。

「ある時から請負仕事が減少しはじめ、ただ仕事を待つのではなく、こちらから提案・発信できる商品が必要だと考えました。そこで、大学で学んだ振動工学の専門知識を活かし、オリジナルの音響クラフト商品の開発を目指したのです」と代表取締役の小泉俊博氏。母校の研究室とタイアップし、コンピュータを使って素材や形状ごとの振動モードを解析して「快音」を追求した。小泉屋の商品が奏でる音色と余韻には、振動工学による科学的な裏付けがあったのだ。

他にも設計・原型制作に3D-CADや3Dプリンターを、研磨などの精密加工にはロボットも導入。「おかげさまでたくさんの注文をいただき、製造が追いつかない時期もありました。いまは機械化を進め、品質の高い商品を効率的に製作できています」

研究者であり一級技能士（銅合金るつぼ溶解第一号）でもある小泉氏。音響商品の素材として銅への評価は？

「銅は、銅合金にすることで、狙った音に適した結晶構造に変えることができます。また金属は、薄く大きくすると低い音に、厚く小さくすると高い音になりますが、柔らかく加工しやすい銅ならそれも自在です。錆びることもなく、磨けばより美しく輝く銅は、音響商品に最適な素材と言えますね」

銅を使った小泉屋の商品には斬新なデザインが多く、中にはボール型の「おりん」も。

「これは職人のデザインです。おりんを逆さにし、点で支えることで余韻や響きがとても良い商品となっています。他にもツリー型のお洒落なカウンターベルなど、自由で斬新な発想の開発をしています。そこに科学的な音への検証・探究を行い、いままで世の中になかった世界初と呼ばれる商品を創り出せたら楽しいですね」と小泉氏は語る。

アメリカなどで販売実績を持つ小泉氏は、「WAON（和音）」のブランド名で海外展開も計画中。やがて、耳を澄ませば美しい銅の音色が、世界中で聞こえてくるのかもしれない。

株式会社小泉製作所
代表取締役 小泉 俊博氏